

(2) 伊勢湾台風 (台風 15号)

明治になってから災害は数多くあったが、伊勢湾台風は本土へ上陸した台風の観測記録としては、史上3番目のもので、みぞうの被害であったと言われている。

昭和34年9月26日(1959)18時ごろ潮岬西方に上陸し、27日未明にかけて伊勢湾沿岸ぞいに本土へ上陸、最高瞬間風速53mを記録し、三重、愛知、岐阜を直撃、満潮時と重なり高潮となって各所で堤防を破り、三県で107,000戸、死者5,000名の犠牲者を出す悲惨な結果となった。

特に三重、愛知県境付近で被害を受けた老人、婦女子、児童約1,300名を自衛艦、ヘリコプターで鈴鹿電通学園へ収容した。このうち、小中学生は10月17日庄野町通信病院鈴峯荘へ移り、正規の授業を受けた。

鈴鹿市の被害は、死者9名、重軽傷者36名 家屋全半壊477戸 家屋流失21戸 浸水家屋1952戸であった。鈴鹿市被害総額 4億円

庄野では8月竣工した庄野橋(現永久橋の下流にあった木橋)が流失し船のように流されていった。各所で樹木が倒され、川西では一面水浸し、家並みはあたかも海に浮かぶ船のように見えた。庄野被害 家屋全壊2戸 家屋半壊3戸

さらに龍巻が発生、通信講習所の長い建物を倒し、小学校の松も倒し、そして民家の屋根瓦をはぎ、稲を筋になぎ倒して西北の山へ抜けていった。(当時の回想)



S 34. 8. 13 庄野橋流失